

2020.4

燕舞会会長 佐藤 弘美

燕舞会会員 各位

燕舞会における会費納入制度導入の検討について（ご連絡）

燕舞会会員の皆様、会長の佐藤です。

代表委員会は2/29（土）に年度第1回の会合を開催し、先般の総会・懇親会の反省を踏まえた年内の活動を開始いたしました。その中で、会員からご寄付の形で頂く唯一の活動資金である「活動支援金」が今年は、現時点で約2万円（因みに昨年度は3.6万円）であり、年度目標額の8万円に大きく未達となっている事が示されました。そこで「活動支援金」に頼る本会の運営資金体制の問題点を整理した結果、代表委員会において「会費納入制度の導入」を検討する事にいたしました。

制度導入の是非については、総会議案となるものではありませんが、その議案を次年度の総会にかけるのは、「会員出席率が10%に満たない現状においては不適切」との考えから、① 代表委員会の素案をメルマガ等でお示し（今回のメルマガです）、② 広く会員のご意見をお聞きし（後日アンケート形式の意見収集を予定）、③ 賛否も含めてその意見動向を皆様に公表しつつ、④ 必要な修正を施し ⑤ 臨時の紙面あるいは電子媒体による臨時総会で提案、議決を経て、⑥ 次年度総会で報告 という手順を考えております。

以下に、「会費納入制度導入の検討」に至った経緯等を記しますので、今回お示しする代表委員会の素案、また皆様の意見動向も踏まえて後日お示しする予定の本提案を吟味する際の参考としてください。

繰り返しになりますが、本制度の導入は会の運営の大きな変革となります。会員の皆様におかれましてはこのメルマガでお示しする素案の段階におきましても、是非とも忌憚のないご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

会費納入制度の導入検討に至った経緯（理由）

（1）燕舞会 会計の脆弱性

- ① 唯一の活動資金である「活動支援金」（2010年創設）は創設から10年を経過したが、年度により、集金額にバラツキがあり、予算立て及び予算執行が苦しい年度がある。
- ② そのため、現役支援はスポット的に、且つ有志の善意の寄付に頼らざるを得ない。
（部旗、ゼッケン、腕章の更新/フォーメーションドレス更新/夏全日本遠征費補助 等）
- ③ 今年の総会において、会員同士による様々な自主的グループ活動を支援するための「会員活動助成基金」を特別会計に創設したが、支援の裏付けとなる財源がない。
- ④ 支出削減にも取り組んだが、（ホームページ維持費を廉価なものにした/総会・懇親会をはがき案内から、メール、メルマガ案内へ移行/代表委員会開催場所を蔵前工業会館から大学構内の教室で開催 等）限界もあり、また他大学の記念行事/OB会との交流費等の

臨時支出の対応も発生。

(2) 魅力ある「総会・懇親会」を目指し、且つ現役部員との交流をさらに発展させて行きたいが、

- ① 出席会員の少なさから、現役部員との交流に際し部員に会費負担を強いている実態がある。

(新 OBOG 会員同様、現役部員に対しても、無料の招待を実現したい)

- ② そのためには、「総会・懇親会」に参加する会員数を増やす工夫が必要であり、「安価な会場、魅力ある懇親会」の実現に今後も努める。

(3) 現役支援の「個人による善意の寄付」から「燕舞会としての支援」への変換

「燕舞会 会計の脆弱性」の項で記載しましたが、現役支援を考えた場合、現在の学生ダンスは「8 種目化」「正装ドレス戦の増加」など黎明期世代の人(佐藤も含めて)からは想像できないほど金銭のかかるスポーツになっており、支援のための財源確保は大きな課題になっている。

これらの課題を克服するため、「活動支援金」と「個人の寄付」に頼る体制から、「会費納入制度」により会費を求め、会の財政基盤を強化する事を考えた次第です。

会費納入制度導入後のイメージ (代表委員会 素案)

本件に関しては、会員の皆様におかれましても様々なご意見があろうかと思えます。以下にお示しするものは、現時点の代表委員会の課題も含めた素案です。皆様からのご意見、後日実施のアンケートによる意見動向が、後日お示しする本提案の基となりますので、是非、積極的な意見発信を頂ければ幸いです。

当面のお問い合わせ、ご意見は、佐藤の下記個人メールアドレスまでお願いいたします。

hisato806034@vega.ocn.ne.jp

会費納入方法 (方法 1, 2 いずれの場合も**寄付の枠組み**は残したいと思えます)

- (1) 方法 1 ; 賛同者からの任意の納入を基本とし、その金額は年間活動経費を基に検討する他大学年会費事例 ; 東大・・・3 千円、一橋/慶応・・・5 千円 など、

(会費納入者の比率は概ね 3 割程度と聴いている)

課題 ;

- ① 会費額 vs. 納入者比率の見立て (高額会費 ⇒ 会費納入者減少の懸念)
- ② 40 歳未満 2 千円、40 歳以上 3 千円 等 年齢で会費に傾斜をつけるかどうか)

(2) 方法 2 ; 「広く・薄く」をコンセプトに会費納入の要請を実施し、納入者比率の向上と会費の**低額化**

を図る。併せて納入者に対しては、何らかの**インセンティブ**を与える事を検討する例 ; 会費納入者に対し、懇親会や現役とのふれあいイベントへの参加費の引きなど以下は、制度設計の一案 ;

- ① 他大学サークル OB 会においては、高齢の会員に対する会費免除の仕組みも散見され、

納入期間に年齢の上限を設ける方向で検討（現在、制度設計/管理面で好ましいと考えている）

例；B卒23（M卒25；学生会員期間は免除）～ 65歳（年金受給年）/70歳（古希）
納入期間終了後は、会費免除の終身会員に移行

- ② 定額会費の場合、「会費納入総額の世代間格差」という問題点がある。これについては、特に、会費免除の終身会員、年嵩の会員に対し「寄付金」の要請をする事で対策とした
- ③ 制度発足時、既に会費免除対象となっている会員に対しては、経過措置としてご寄付（金額は別途検討）を頂いた後、「終身会員」に移行して頂く ⇒ この寄付金は繰越金会計に組み込むが、その額がまとまった金額となれば、会費納入世代の会費の更なる低額化につながると考えている
⇒ 会費納入世代の年会費1千円を目標として、制度設計したい
- ④ 毎年の「年会費の納入」以外に今後の納入額に対する割引きを伴った「一括納入による終身会員移行制度」を設けるかどうか、また会費納入事務の簡素化のためのシステム導入も検討する

（3）方法1, 2いずれの場合も制度導入に際し、会則の改定、会費に関わる細則を別途定める。

また、会の財務状況に応じて会費の改定が臨機応変に実施出来るよう細則の中で考慮する。

以上